

第6回日韓・韓日ジュニアフォーラム

両国大学生による提言

「コロナ禍で変わった私たちの生活と日韓交流の行方」

【基本認識】

新型コロナウイルスは、日韓の学生の日常を大きく変えた。日韓ともに、授業が全面的にオンラインになったことで、学校で過ごす時間は大幅に減少した。とくに新入生や留学生は、キャンパスライフを送ることもできずにおり、大学生活を通して感じられる刺激や、思い出づくりが難しくなった。また、経済状況の悪化によって困窮する学生が増加したことも日韓共通の問題だ。反面、通学時間の短縮になり、自分の時間を作ることができるようになったという学生もいた。

渡航が難しくなったことは、両国の学生にとって大きな影響を与えた。予定されていた旅行や留学などが中止せざるを得ない状況となり、日韓の距離を感じるようになった。オンラインで様々なことが可能になる中、直接的な体験に変えられるものはなく、以前のような往来が可能になる日を強く待ち望んでいる。

また、家で過ごす時間が増えたことで、動画アプリなどを多く利用するようになった。これにより日本側では、韓国のドラマや映画など、気軽に韓国コンテンツに触れる機会が増え、幅広い年齢層で韓国文化への接触・関心の増加が見られる。反面、韓国側では、むしろ日本の文化的側面を体験しづらくなったことから、知る機会が減ったという意見が多くみられた点は、日韓で異なる部分であった。

こうした中、私たち学生の「今後の日韓交流に対する眺め」は様々である。これまで大都市を中心に行われていた日韓交流事業が、オンラインでも行うことが可能になった。これにより、これまでの形態では参加が難しかった地方在住の学生たちも、参加がしやすくなったといえる。また、特に日本の若者を中心に韓国文化への関心が高まっており、今後の日韓交流はますます増えていくのではないかとの期待もできる。

しかし反面、オンラインでは文字や言語での表現が中心となり、「ノンバーバル」表現への接触が減るため、より深い交流は難しくなったようにも感じている。またこれまでは、旅行や留学を通して直接体験して得られる情報や経験が、日韓相互のイメージを形成してきた。しかし、往来が難しくなり、マスメディアをはじめとする外部から得られる情報が大方を占め、多様な視点で相互を知る機会が少なくなったともいえる。

日韓の長い交流の歴史をもう一度振り返り、互いの重要性を再認識する必要があるだろう。また、未来志向な日韓関係構築のために、日韓相互の様々な人々が参加し協力していく環境づくりが必要である。

【提言】

○政界分野

- 日韓・韓日議員連盟の活性化と市民によるその活動への期待と監視
- 両国与野党における党間外交の推進

○マス・メディア分野

- 客観的視点に基づいた、対話重視型の報道を実施
- 日韓交流の実績・意義をより広範的に周知してもらうための報道を強化
- 映像作品などの持続可能で長期的な共同プロジェクトの推進

○経済分野

- 両国企業による共同投資事業などの協業の推進
- 共通認識である資本主義市場経済を基調とした経済活動の協力と、対立の防止

○教育分野

- 未来志向的観点を基調とした両国関係を双方の教科書に掲載

○民間分野

- 日韓両国における対韓・対日感情の世代間格差の解消
- 韓国在留の日本人、日本在留の韓国人による在住地域社会への貢献の強化
- 市民レベルでのヘイトスピーチへの反対、反「反日」・反「嫌韓」的意見表明の強化

日本側参加者：

野崎文香
永富新之丞
坂井絢香
浅野孝太
筑波まりも
出井希

韓国側参加者：

劉アロム
張效宰
金秀暎
張世仁
申詠收
権赫寅

(了)